

自分や他者の思いを大切にし、伝え合う力を育む授業に関する一考察

～中学校特別支援学級における国語科の学びを通して～

井上 美由紀 ・ 若松 昭彦*

1. はじめに

令和3年度, 広島大学附属東雲小・中学校特別支援学級では, 「自分や他者を大切にする資質・能力を育む授業プログラムの開発」をテーマに共同研究を行った。また, 令和4年度から広島大学附属東雲中学校(以下, 本校と略記)では, 「教科等本来の魅力に迫るための教員の資質・能力～授業づくりに必要な各教科等の視点～」(東雲教育研究会, 2022)をテーマに研究を始め, 本校特別支援学級(以下, 本学級と略記)においては, 「知的障害教育の魅力に迫るための教員の資質・能力」を整理した。この2つの研究をもとに, 本研究の実践授業では, 国語科の学びを通して, 生徒が, 言葉がもつ良さや面白さに気づき, 自分の思いや考えを表現したい, 仲間の思いや考えを聞きたい, 知りたいという気持ちをもてるようにしたい。そして, 仲間の思いを理解したり, 自分の考えを仲間に受け入れられたりする経験を繰り返すことで, 自己肯定感を高め, 生徒自身が伝え合う良さや価値に気付くことができるようにしたい。

2. 目的

自分や他者の思いを大切にし, 伝え合う力を育む授業に必要な視点を, 国語科の学びを通して, 個々の生徒の言動と自己評価アンケートの結果の変容から検証し, 考察する。

3. 方法

1) 対象

本学級では, 国語科の授業は習熟度別のグループで学習している。本研究の対象となる国語Xグループは, 1年生1名(男子), 2年生3名(男子1名, 女子2名), 3年生2名(男子1名, 女子1名), 計6名で構成されている。6名は, 知的障害(療育手帳B判定)を有し, 言葉で会話をしたり, 小学校3～4年生程度の漢字を読んだり, 書いたりすることができる。生徒A(1年男子)は, 自信がもてないためか進んで自分の意見を言う場面は少ないが, 促されると自分の思いや考えを伝えることができる。物語を音読する場面では, 気持ちを込めて読むことができる。生徒B(2年男子)は, 発表する声が小さく, 言葉数は少ないが, 分かることははっきり端的に伝えることができる。課題と向き合いじっくり考えることができるが, 自分の思いや考えを表現するまで時間がかかることが多い。生徒C(2年女子)は自閉症で, 思ったことをすぐに発言したり, 不安や苦手さを感じて消極的な言葉やなげやりな言葉を発したりすることがある。自信や関心のある時は, 進んで発表したり, 集中して課題に取り組めたりすることができる。生徒D(2年女子)は自閉症スペクトラムで, 進んで自分の思いを伝えることができ, 分からないことがある時は, 自分から質問し, 確認することができる。間違いを失敗と捉え落ち込みやすいが, 頭を抱える態度や落ち込んだ思いを言葉で伝えることができる。生徒E(3年男子)は広汎性発達障害, ADHDを併せもち, 自分の思いを伝えたり, 他者の話を聞き感想を伝えたりすることができる。気持ちの浮き沈みがあり, 質問に対しじっくり考えないで「わかりません」と即答することがある。生徒F(3年女子)は, 物事をじっくり考え自分の意見を伝えたり, 他者の思いや考えを聞こうとしたりすることができる。詩や作文では, 自分の思いが伝わる言葉や表現方法を探し選んで書くことができる。慣れ親しんだ仲間に対しては, 話しかけることができる。

* 広島大学大学院 人間社会科学研究科

Miyuki INOUE, Akihiko WAKAMATSU

A Consideration on Classes to Cultivate the Ability to Value and Communicate with Oneself and Others. Through learning Japanese in a junior high school special needs class

2) 国語科で実践した「自分や他者の思いを大切にし, 伝え合う力を育む授業」の計画

本校研究では, 知的障害教育の魅力に迫るための教員の資質・能力を見取る視点を3つの項目「授業構想力」「授業実践力」「授業分析・評価力」に整理し, 本学級では, その具体を表1のように示した。本研究では, それらの視点を踏まえ, 国語科の「自分や他者の思いを大切にし, 伝え合う力を育む授業」を計画し, 実践した。その年間指導計画を表2に示す。

表1 知的障害教育の魅力に迫るための教員の資質・能力

視点		資質・能力の具体
授業構想力	目標設定	実態把握(知的障害の状態, 生活年齢, 学習状況や経験等) / 適切な目標設定
	教材研究	生活との結びつきのある指導内容の設定 / 知識, 技能, 学びに向かう態度等の育成 / 意欲を育てる工夫
授業実践力		主体的活動を促す手立て / 課題解決に向けた思考力, 判断力, 表現力等を育む指導 / 成功経験を豊富にする手立てや形成的評価 / 教材・教具等の工夫 / 自己肯定感の育成 / 情緒の不安定さなどの課題への対応
授業分析・評価力		学習内容や目標の適切さについての学習評価 / 学習への意欲に対する見取りや分析 / 段階的な指導を行うための見取りや分析, 授業改善

表2 国語科Xグループ年間指導計画

月	単元・題材	時	学習目標(目標設定)	学習内容(教材研究)	手立て(実践力)	評価(分析・評価力)
4	よりよく自己紹介をしよう	6	よりよく自己紹介するためのポイントを知り, 自分のことを相手に分かりやすく伝える工夫をしようとしたり, 相手の話に関心をもち聞こうとしたりすることができる。	相手や目的に応じて伝えたいこと考える。声の大きさ, 速さ, 話す態度に気を付け, 話し方の工夫をし, 実践する。自己紹介を聞き合い, 分かったことや感じたことを伝え合う。	よりよく自己紹介をしたかと思える例を示したり場面設定をしたりする。互いに工夫したことを実践し合い, 良くなったところを伝え合い, 伝える意欲を高められるようにする。	自己紹介のポイントを意識し, 紹介の仕方を工夫し, よりよく実践しようとしている。仲間の話に関心をもって聞き, 工夫点や良さを見つけようとしている。
5	詩を味わう「ただいるだけで」 「詩集: 相田みつを」	10	詩の言葉やリズムの面白さを感じたり, 作者の心情や情景を想像したり, 伝え合ったりすることができる。自分の思いや感じたことが伝わる工夫をしながら詩を作り, 伝え合うことができる。	「詩を味わう」の意味を知り, 詩集を音読し, 言葉や表現, リズムの面白さや作者の思いを読み取る。詩集から好きな詩を選び, 選んだ理由を発表し合う。自分の思いを表現する詩を作り, 発表し合い感想を伝え合う。	「詩を味わう」の意味を知ったり範読を聞いたりし, 詩の良さに気付けるようにする。生徒実態に合う詩や, 興味・関心が広がる詩を準備し, 読んだり創作したり伝え合おうしたりする意欲を高められるようにする。	「詩」という表現方法を知り, 詩の面白さを感じたり, 情景や作者の思いを想像したりしたことを伝え合おうとしている。自分の思いを表現した詩を工夫しながら作り, 発表し合い感想を伝え合おうとしている。
7	物語を読む「オオカミと羊飼ひ」	4	あらすじを捉え登場人物の心情の変化を読み取ることができる。印象的な言葉や場面, 感想を伝え合い, 共感したり考え方を広げたりすることができる。登場人物の心情や状況が伝わる工夫をし, 音読することができる。	登場人物や場面展開を表す言葉や表現を確認し, あらすじを捉える。印象的な言葉や場面を選んだり, 感想を伝え合ったりする。登場人物の心情や状況が伝わる工夫をしながら音読する。	言葉の意味や場面の情景を視覚的に示したり動作化したりし, あらすじを捉えることができるようにする。印象的な言葉や場面を選んだり理由を述べて感想を伝え合い, 共感したり, 考え方を広げたりできるようにする。	あらすじを捉え, 印象的な言葉や場面を選び, 選んだ理由や感想を伝えようとしている。互いの感想を聞き合い, 共感したり考え方を広げたりしている。音読を聞き合い, 良さやアドバイスを伝えようとしている。
8	スピーチ「夏休みの思い出」	3	紹介したい思い出を選び, よりよく伝わる工夫をしながら話すことができる。仲間の話に関心をもつて聞き, 感想や質問をすることができる。	より良く伝える話し方を確認し, 工夫しながら発表する。より良い聞き方を確認し, 感想を伝えたり質問したりする。	絵日記を読み返し, 紹介したい思い出を自分で選ぶようにする。より良い話し方・聞き方を説明し発表や感想を伝え合う意欲が高まるようにする。	紹介したい思い出を選ぼうとしている。より良い話し方・聞き方を意識し実践し, 互いの話に関心をもつて聞き, 感想を伝え質問しようとしている。
9	読みが同じ言葉と四字熟語	2	読みが同じ言葉や四字熟語に関心をもって調べたり, お気に入りの言葉や四字熟語を紹介したりすることができる。	読みが同じ言葉や四字熟語の意味を調べる。調べた中からお気に入りの言葉や四字熟語を選び, 紹介する。	意味のヒントをイラストで示し, 興味をもてるようにする。紹介し合う場面を設定し, 関心をもてるようにする。	読みが同じ言葉や四字熟語に関心をもって調べたり, お気に入りの言葉や四字熟語を紹介したりしている。

9	情報を読み取る・説明文 「作ってみよう」 「糸電話の作り方を書こう」	8	作り方に必要な事柄を知り、時間的な順序や事柄を読み取ることができる。作り方を書く時に必要な事柄を押さえ、分かりやすく伝える工夫をしようとする事ができる。	挿絵に合う文カードを探して並べ、絵と文が合う理由を発表し、伝え合う。糸電話の作り方を調べ、伝える工夫をしながら作り方を書く。仲間の作り方を読んで作り、分かりやすいところやアドバイスしたいところにマークし、伝え合う。	絵に合う文カードを操作したり、絵と文が合う理由を伝え合ったりする活動を設定し、順序を考慮して書こうとするようにする。作り方を読み合い作る活動や、良さやアドバイスを伝え合う場面を設定し、よりよく伝える意欲をもてるようにする。	作り方に必要な事柄を知り、時間的な順序や事柄を読み取ろうとしている。作り方を書く時に必要な事柄を意識し、読み手が分かりやすい作り方を工夫し書こうとしている。互いの作り方に興味をもって読んで作りしている。
10	電話をかける・敬語 メモをとる 「電話を使って伝えよう」	6	基本的な電話のマナーや応答の仕方を知り、相手や目的に応じた話し方で話することができる。用件を聞き取ったり、メモを取ったりすることができる。	電話の場面や状況を理解し、役割分担をして音読したり、電話での挨拶やマナーを確認したりする。電話をかける相手や5W1Hを意識し用件を伝えたり、聞き取ったりする。ロールプレイングを見合い、良いところやアドバイスを伝え合う。	電話をかけるときに気を付けていることを発表し合い、マナーや応答の仕方を共有できるようにする。電話の場面をロールプレイングし、感想を伝え合い、話し方・聞き方のポイントの理解が深まるようにする。	基本的な電話のマナーや応答の仕方を知り、相手や目的に応じた話し方で話そうとしている。用件を聞き取ったり、メモを取ったりしようとしている。互いの伝え方に興味をもち、良さやアドバイスを伝えようとしている。
11 12	作文 「伝わりやすくなるように書こう」 「心に残ったことを伝えよう」	13	作者の思いや情景を伝える工夫に気づき、自分の心に残っていることをよく書こうとすることができる。自分の思いや情景が伝わるように作文を読んだり、仲間の思いに関心をもったり、良さや感想を伝えようとしたりすることができる。	作文例を読み比べ、よりよく伝える方法を見つけ、伝え合う。原稿用紙の使い方を学ぶ。心に残っていることを選び、自分の思いや情景を伝える工夫をしながら、作文を書く。互いの作文を発表し合い、聞き合い、良さや感想を伝え合う。	誤字や順序、作者の思いや情景を表現する工夫に気づける作文例を準備し、気付いた個所にマークできるようにする。原稿用紙の使い方を視覚的に繰り返し示す。自分の思いや向き合う時間を取り、自分の思いや情景を言葉で考え工夫して書こうとするようにする。作文を発表し合う場面を設定し仲間の思いに関心をもてるようにする。	作者の思いや情景を伝える工夫に気づき、伝えようとしている。自分の心に残っていることを選び、表現の工夫をしたり、原稿用紙の使い方に関心をもったり、よりよく書こうとしたりしている。自分の思いや情景が伝わるように作文を読もうとしている。仲間の思いに関心をもったり聞き、良さや感想を伝えようとしている。
1	俳句	8	十七音や季語で表現する方法を知り、言葉の響きやリズムに興味をもって読むことができる。好きな俳句を紹介したり、俳句を作ったり発表したりすることができる。仲間の俳句に関心をもって聞き、良さや感想を伝えようとする事ができる。	俳句を音読する。五七五の十七音や季語で表現する方法を知る。俳句集から好きな俳句を選び、選んだ理由を伝え合う。俳句を作り、作った理由を含めて発表し合ったり、良さや感想を伝え合ったりする。	俳句の表現方法を知っているか質問し、関心を高めたり、理解を深めたりするようにする。挿絵のある俳句を例示し、情景や心情を想像しやすくする。好きな俳句の理由や作った理由を含めて発表し合うことで、思いに関心をもてるようにする。	俳句の表現方法を知り、言葉の響きやリズムに興味をもって読むようになっている。好きな俳句や作った俳句の理由を含めて発表している。仲間の俳句に関心をもったり聞き、良さや感想を伝えようとしている。
2	ことわざ・慣用句	6	ことわざや慣用句で例えて伝える表現の面白さに気づき、意味を調べようとする事ができる。生活の中の出来事をことわざや慣用句を使って表現しようとする事ができる。	ことわざや慣用句について知っていることを発表し合ったり、意味を調べたりする。生活の中での出来事をことわざや慣用句を使って表現したり発表し合ったりする。	ことわざや慣用句について知っていることを発表する場面を設定し、関心をもてるようにする。理解しやすいことわざや慣用句を提示し、自分の生活場面と照らし合わせ表現できるようにする。	ことわざや慣用句を使った表現方法に関心をもったり、意味を調べようとしたりしている。生活の中の出来事をことわざや慣用句を使って表現しようとしたり、発表しようとしたりしている。
3	1年間のまとめ	4	1年間で学習したことを振り返り、できるようになったことや難しかったこと、これからどんな力を付けたいかなどを考え発表することができる。	単元ごとに学習目標や学習内容、学習態度を振り返り自己評価する。成果物を振り返り、できるようになったことや難しかったことを発表し合う。	学習目標に向かう個々の様子や態度について伝え、できた・できなかっただけではなく視点で自己評価し、自分の学習成果や課題をみつめることができるようにする。	学習したことを振り返り、できるようになったことや難しかったこと、これからどんな力を付けたいかなどを考えたり、発表したりしている。
合計		70				

※「自分や他者の思いを大切にし、伝え合う力を育む授業」にするための視点を波線で示している。

3) 分析方法

自分や他者の思いを大切にし、伝え合う力を育む授業を計画し実践した効果を、一人一人の生徒の言動と生徒が自己評価したアンケート結果の変容から分析する。

生徒の言動の変容は、各単元で計画した考えや思いを伝え合う場面や発表場面での生徒の言動や、学習の様子を記録した動画、生徒の記述内容からエピソードを抽出し見取る。

アンケートは、昨年共同研究で用いた「自他を大切にすることを測る評価表」から「自分を大切にすることを測る観点の「自己理解力」・「自己主張力」と「他者を大切にすることを測る観点の「他者志向性」の観点を抜粋した「自他を大切にすることを測るコミュニケーションに関するアンケート」(資料1)と、平成22年度「子どものための優れた舞台芸術体験授業」〔児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験〕(文部科学省, 2010)で用いられたアンケートを参考にして筆者が作成した「思いを伝え合う力に関するアンケート」(資料2)を用い、7月と12月に実施し、比較する。

4. 結果

1) 生徒の言動

生徒6名ひとりひとりの「自分や他者の思いを大切にし、伝え合う力」に関わる言動を、1学期と2学期の各単元での学習の様子から示す。

(1) 生徒A (1年男子)

1学期の「よりよく自己紹介をしよう」で、メモばかりを見るのではなく、相手の顔を見ながら、はっきりと大きな声で話すことがポイントになることを学習した。実際の東雲小学校特別支援学級の児童に向けた自己紹介では、恥ずかしさのためか、プロフィールポスターを何度もチラチラ見て小さめな声で話していた。好きな食べ物はピザと伝える場面では、『特徴は、のびる』と、食べる時チーズが伸びる様子を動作も加えて説明していた。「詩を味わう」では、好きな詩を選んだ理由を『一日を大事に生きようとするところがいい』と伝えることができた。詩の創作では、詩集や教師の助言を参考にして日陰で寝ころんだ時の感覚を、目を閉じた時、開けた時を比較し表現したり、『ヒュー』という擬態語を使って表現したりすることができた。その詩を発表する時は、小さめな声で、もじもじと恥ずかしそうに読んでいた。「物語を読む」で音読する時、「男の子のセリフをどのように読みたいですか。」の質問に、『本当にオオカミが来たみたいに、大きな声にして、村人をびっくりさせるように』と答え、実際に男の子になりきって表現していた。読んだ感想を聞くと『[大変だ。オオカミだ。オオカミが来たぞ。]』のところを、まあ大きな声で読めた』と自己評価していた。

2学期の「スピーチ(夏休みの思い出)」では、小さい声で自信がない様子で発表していた。仲間から質問されたことが分からない時に「分かりません」と答えず、頭を掻いてもじもじしていると、仲間から「〇〇かね～」という言葉が掛けられ、頷いたり首を傾げたりして答えていた。「電話をかける」で、教科書の題材を役割分担して読む時は、登場人物になりきり、はっきりした声で読んでいた。教師が準備した用件(ハロウィンパレードに誘う)でロールプレイングした時は、相手の反応を意識し、やり取りを楽しみながら用件を伝えようとしていた。「作文」では、心に残っている校外学習の場面を選び、始めは時系列に出来事を書いていく。印象的な場面で自分が思った気持ちを言葉にして、カギカッコで表現するよう促すと、自分の思いを見つめ直し、よりよく伝えようとして改善することができていた。発表する時は、はっきりした声で仲間全員に聞こえる声の大きさを、自分の思いが伝わるような読み方ができていた。読み終えた直後に仲間から自然に拍手が起こり、生徒Eから『気持ちがかもっていったね』と称賛され、満足そうな表情をしていた。また、作文に取り組んでいる期間に行われた1学年での帰りの会の中で、『自分は作文が苦手だけど、頑張って書いています』と発表することがあった。苦手なことに取り組みながらも、自分の思いを見つめ直し、よりよく書こうとする姿が授業の中でも見られた。

(2) 生徒B (2年男子)

1学期の東雲小学校特別支援学級の児童に向けた自己紹介では、学習したポイントを参考に「はっきり言う」という自分の目標を立てていた。伝える項目を確認したい時だけプロフィールポスターを見て、伝えたい内容は覚えて落ち着いて淡々と話していた。声は全員に聞こえる大きさではなかつ

た。「詩を味わう」では、好きな詩を選んだ理由を、『(自分のことを) わかっているようでわかっていない(と表現しているところ)がいい』と、共感したことを発表していた。発表した声が始めは小さく聞き取れなかったため、「もう少し大きな声で発表してみよう」と促すと全員に聞こえる大ききで発表することができた。詩の創作では、「自然の中」という題で、自分もつ自然のイメージに合う言葉を探したり、フレーズを繰り返す表現を取り入れたりしながら時間をかけて作っていた。詩を発表する時は、緊張した表情で淡々と読んでいた。「物語を読む」で音読する時、男の子の役で工夫したい読み方を尋ねると『嘘をついているところと、本当にオオカミが来たところの声の大ききを変えたい』と答え、実際に強弱をつけて読んでいた。音読後の感想を聞くと、『もうちょっと大きい声を出したかった』と答えた。

2学期の「スピーチ(夏休みの思い出)」では、出来事のみ伝え、仲間からの質問に小さい声で答えていた。「糸電話の作り方を書こう」では、『目打ち(穴をあけるための道具)』『穴を開ける(タコ糸が通るくらいの穴)』と読み手が分かりやすく書いていた。始めは『挿絵はかきません』と言っていたが、生徒Bの作り方を見て作った生徒Cから「絵をかいてくれたらよかった」とアドバイスされると、挿絵を描き加え修正していた。「作文」では、進んで2学期の行事を書き出し、書きにくいものを消していき、残った2つから「二日目の職場体験」を題材として選んでいた。始めは時系列に体験したことを書いていたが、職員の方から作業のコツを教えてもらった時の言葉や作業後の思いをカギかっことで表現したり、来年の職場体験学習への思いを加えたりするよう促すと、振り返り、自分の思いと向き合いながら書いていた。作文を発表する時は、仲間全員に聞こえる声の大ききで読めていた。発表後、聞き手の5人全員が感想を伝えようと挙手したのを見て困惑した様子になった。感想を聞くために指名するよう促すと『いやです』と小さな声で筆者に伝えた。筆者が指名することになったが、感想を言ってくれる仲間一人一人の方を向いて聞いていた。

(3) 生徒C(2年女子)

1学期の東雲小学校特別支援学級の児童に向けた自己紹介では、学習したポイントを参考にし、相手が小学生であることを意識した紹介内容を考え、『小学生と同好会(小・中学校合同の学習)の時に、優しい声で声を掛けるのを頑張りたいです。小学生のみなさん、同好会一緒に楽しみましょう』と、小学生の方を向き、はっきりした声で伝えていた。「詩を味わう」では、好きな詩を2つ選び、『[自分の花を咲かせて]という言葉がよかったです』『[こころがきれい]のところよかったです』と自ら選んだ理由をはっきりした声で伝えることができていた。発表後、教師から、「上手に発表できていたよ」と伝えると、『みんなが集中して聞いてくれからよかった。でも、めっちゃ緊張して泣きそうだった。』と発表した感想を話していた。次に、詩を作る学習をすることを伝えた時、苦手意識があるのか『えー、うち作れん』と、投げやりな言い方をしていた。外に出て、草の上に寝ころんで感じたことを言葉にしてみようという促すと、実際に見えたものや感じたことを短いフレーズを使って「木と草」という詩を作ることができた。生徒Cとの会話でよく出る「めっちゃ」のフレーズも使われていた。詩の発表では、自ら暗記して発表すると宣言し、草・木・風・太陽を感じた時の思いを、言葉だけでなく動作も合わせて表現していた。発表後、仲間から共感されたり、詩のいいところを伝えられたりし、照れながらも頷き満足感のある表情をしていた。「物語を読む」の音読発表で、「どんなふう工夫して読みたいですか」と聞くと、『ない!』と即答し、「がんばって考えてみよう」と促すと、教科書を見直したり上を向いたりしながら考え『大きな声ではっきりと言う』と答えた。発表では、動作も加えてはっきりした声で読んでいた。発表後の感想を聞くと、「ない!」と答え、教師から「村人の動作も加えて読んでいて、良かったよ」と言われると、うんうんと頷いていた。

2学期の「電話をかける」で、教科書の題材を役割分担して読む時は、登場人物や状況を理解し読んでいた。教師が準備した用件(ハロウィンパレードに誘う)でロールプレイングした時は、受け答えかたが難しかったのか、もじもじし返答が曖昧で、会話が続きにくかった。「糸電話の作り方を書こう」で、仲間が書いた作り方の良いところやアドバイスをする場面では、積極的に挙手したものの、『どう言えばいいか分からん』と自ら助けを求め、伝え方を聞きくことができた。普段より小さい声ではあったが、自分の気づきを最後まで伝えようとしていた。「作文」では、詩の創作と同様に始めは苦手意識があり、『書けれん!』と顔を伏せる様子を見せていたが、自分の心に残っていることを見つめ直し、「さつまいもほり」を選び書き始めることができた。会話文や自分の思いをカギかっことで表現

する方法を使って、掘り方を教えてくださった環境との会話や、自分の思いを表現していた。早く完成させたい言動があったが、「さつまいもを掘り終わったときの気持ちや、家に持って帰って家の人に見せた時のことなど付け加えてみたら？」と助言すると、受け入れ思い出して、根気よく書こうとしていた。発表では、発表順が1番目になったため、緊張して元気のない様子の発表になったが、仲間からの共感できるところやいいところの感想を聞いて、表情が明るくなっていた。

(4) 生徒D (2年女子)

1学期の「よりよく自己紹介をしよう」では、学習したポイントを参考に「早口ではなくゆっくり言う。声を大きくする」という自分の目標を立てていた。東雲小学校特別支援学級の児童に向けた自己紹介では、小学生の方を向いて覚えて伝えようとしていたが、緊張や恥ずかしさのため、声が小さくなり、聞き取りにくかった。「詩を味わう」では、好きな詩を3つ選び、それぞれ好きな理由を、作者の思いに共感したり、比喻表現を捉えて作者が伝えたい思いを想像したりしながら詳しく発表できていた。詩の創作では、「日かげの下に」という題で、「日かげの下にねていたら」というフレーズを繰り返したり、「心がおちつくなあ」「ああ一心がやすらぐなあ」と対比した表現を使ったりし、自分の感じたことを表現できていた。発表時は、全員が聞こえる声の大きさと、気持ちを込めて音読し、生徒Eから『気持ちよく言っていた』や、生徒Bから『言葉の強弱があったからよかった』と感想を伝えられ、照れながら恥ずかしそうに聞いていた。「物語を読む」で音読発表前にナレーター役で工夫したい読み方を尋ねると『ある日や何日かしてのところをゆっくり言う』と答えた。実際に状況が分かるようなトーンで読み、生徒Eから『ナレーターが、その状況によって言っているところが良かった』と感想を伝えられると、照れくさそうにしていた。

2学期の「電話をかける」の音読では、登場人物や状況を理解し読んでいた。教師が準備した用件(芋ほりのための持参物を伝える)でロールプレイングした時は、焦って相手の返答を待たずに自分の用件を伝えようとする場面があったが、おおよそ状況を理解し、受け答えしようとしていた。「糸電話の作り方を書こう」で、仲間が書いた作り方の良いところやアドバイスをする場面では、作り方を書いた仲間の方を向き、丁寧に詳しく気づきを伝えようとする事ができた。「作文」では、苦手意識をもっていたが、「失敗は成功のもと」という題で、職場体験での出来事を順序よく書いていた。「難しかった時や頑張った時の気持ちをカギかっこの中に書いてみよう。」という助言や原稿用紙の使い方修正を受け入れ、書き加えたり、根気よく直したりし、よりよく書きたいという意欲や態度が見られた。発表では、少し早口になったが全員が聞こえる声の大きさと読み、書いたことを動作でも伝えながら説明していた。生徒Eから『3年生になったら、達成できなかった目標「指示をよく聞き作業をする」に向かって頑張りたい、のところが今後の目標につながっていていいと思いました。頑張ってください。』と応援され、『はい!』と大きな声で返事をしていた。

(5) 生徒E (3年男子)

1学期の東雲小学校特別支援学級の児童に向けた自己紹介では、学習したポイントを参考にし、伝えたいことを覚え、はっきりと大きな声で動作もつけて小学生に分かりやすく伝えようとしていた。最後に小学生に、『同好会をみんなで一緒にがんばりましょう!』と呼びかけることとしていた。「詩を味わう」では、好きな詩を2つ選び、それぞれ抑揚をつけて読み、読んで感じた感想や気に入ったフレーズを身振り手振りも付けて詳しく紹介していた。詩の創作では、「木と草」という題の詩を作り、草の匂いや風などを感じた思いを、「さわやか、気持ちいい、ウキウキ、落ち着く、寝れそうだ」の言葉を使って表現していた。詩の発表では、ゆっくりと大きな声で読み、気持ちを込め、動作も加えて表現していた。仲間からの感想を聞きながら聞いたり、聞き取りにくい時は自分から近寄り聞こうとしたり、やり取りをしながら聞いていた。「物語を読む」の音読発表では、ナレーター役の工夫を『場面によって声を変えます』と伝え、実際に状況が分かるように読めていた。

2学期の「スピーチ(夏休みの思い出)」では、オープンスクールに行ったこと発表し、体験したことを絵にして、それを見せながら説明していた。仲間からの質問にも詳しく丁寧に答えようとしていた。「電話をかける」の音読では、担当した役になりきって読んでいた。教師が準備した用件(ハロウィンパレードに誘う)でロールプレイングした時は、友達にかける場面設定は状況を理解し用件を伝えることができていたが、友達の家の人に用件を伝えてもらう場面では、名乗り忘れていたり、相手を確

認しなかったりし、難しさを感じているようだった。また丁寧な言葉で話し、『失礼します』と言って電話を切るなどのマナーを意識したり、用件をメモしようとしたりしていた。「糸電話の作り方を書こう」で、仲間が書いた作り方の良いところやアドバイスをする場面では、作ってみて分かりやすかったところを指しながら、理由もつけて伝えることができていた。また自分の作り方へのアドバイスを受け、よりよく書こうと書き直すことができていた。「作文」では、心に残っていることを振り返り、修学旅行のホテルでの思い出を選んだ。「3人で初めてのお泊り」という題で、印象的なことを思い出した順に書いていた。早く書き終わらせたい気持ちがあったが、教師の助言を受け入れ、順番を変更したり、印象的な場面の会話や思い、聞こえてきた音や見えた景色を詳しく書いたり、原稿用紙の書き方を直したりすることができた。発表では、気持ちや状況が伝わるように読めていた。感想を聞く場面では、仲間の感想に頷き、仲間とやり取りしながら聞くことができていた。

(6) 生徒F (3年女子)

1学期に5月の連休のことを2分間で話す場面では、宮島と愛媛に行き行って体験したことを分かりやすく時間いっぱい伝えようとしていた。もみじ饅頭焼き体験をする様子や松山城までの坂がきつかったことや、愛媛はミカンが有名で、電車やバスがオレンジ色だったことを身振り手振りで伝えたことで、仲間が興味をもって聞き、質問するやり取りが見られた。「詩を味わう」では、好きな詩を3つ選び、『確かに、大事に一日一日生きていかなくちや、大事な思い出を増やせないから』など、作者の思いと自分の思いが繋がっていることを選んだ理由にしていた。詩の創作では、「風」という題の詩を作り、仲間に向けて、『風はどの時代にも今もあって、春夏秋冬にもあって、つないでいて…(略)…つないでる(の言葉)を繰り返しがあって、最後だけ(言葉を)変えて工夫しました』と詩を作ったイメージや表現の工夫を説明していた。「物語を読む」の音読発表では、生徒Aの村人をびっくりさせるように読みたいという意気込みを聞いて、『それでは、こっちは、驚いた声でいこっか』と言い、生徒Aの思いに応えようとしていた。実際に、大きな声で驚いた様子で表現できていた。

2学期の「スピーチ(夏休みの思い出)」では、映画館でジュラシックワールドを見たことを話し、仲間に見たことがあるか尋ねたり、シリーズになっているが前回の話を知らなくてもわかると思うと紹介したりした。また、飲み物についているストローに恐竜がついていたことを絵に描いて説明し、仲間の関心を引いていた。「電話をかける」の音読では、場面や担当した役を理解し、読んでいた。教師が準備した用件(ハロウィンパレードに誘う)でロールプレイングした時は、友達に用件を伝える場面と友達の家の人に用件を伝えてもらう場面の状況を理解し、相手によって話し方を使い分けて伝えることができていた。「糸電話の作り方を書こう」で、仲間が書いた作り方の良いところやアドバイスをする場面では、手順の番号や、材料の個数が分かりやすかったことや、糸電話を使っている様子を描いた絵がかわいいと工夫している点を仲間の方を向いて伝えていた。また自分の作り方へのアドバイスを受け、より分かりやすくなるように吹き出しを使って詳しく説明しようとしていた。「作文」では、心に残っていることを振り返り、10月の学校行事「東雲祭」での個人研究のステージ発表の場面を選んだ。発表前の自分の心情や、先生や仲間からの応援に応えたい気持ち、発表している時や発表後の自分の心情や状態を臨場感あふれる工夫をして書いていた。そして、今回の発表は成功したが、大勢の人の前で緊張してしまう自分は続くかもしれないと不安な気持ちを表現しつつ、「でも、またがんばる」とチャレンジする気持ちを最後の一行に書いていた。作文の感想を伝え合う場面では、仲間全員が進んで挙手し、共感した場面や表現の工夫の良さを伝え、みんなで自然に拍手を送り合っていた。

2) 生徒による自己評価アンケート結果

「自他を大切にするコミュニケーションに関するアンケート」と「思いを伝え合う力に関するアンケート」を7月と12月に実施した。回答は4件法で、結果を「いつもそうする・とてもそう思う」を4、「ときどきそうする・まあそう思う」を3、「あまりそうしない・あまりそう思わない」を2、「ぜんぜんそうしない・ぜんぜんそう思わない」を1として表にまとめた。「自他を大切にするコミュニケーションに関するアンケート」の結果を表3、「思いを伝え合う力に関するアンケート」の結果を表4に示す。

表3 「自他を大切にするコミュニケーションに関するアンケート」結果

観点・項目		生徒						
		A	B	C	D	E	F	
「自分を大切にする」力	自己理解力	自分の気持ちがわかる	3	4	4	4	3	4
			4↑	3↓	2↓	4	4↑	4
		自分の気持ちの変化がわかる	2	4	4	3	3	4
	自己主張力		3↑	4	4	3	4↑	4
		自分のできることとできないことがわかる	1	3	4	3	3	4
			4↑	4↑	4	4↑	4↑	4
	自己主張力	自分の伝えたいことをきちんと伝えられる	2	3	4	2	3	3
			2	3	4	4↑	4↑	3
		自分だけ意見がちがっても意見を言う	2	4	4	3	2	3
		4↑	4	4	3	4↑	2↓	
転校することになってもやっていける		4	1	1	3	1	3	
自己主張力		4	2↑	1	3	1	3	
	分からないことは周りの人に聞く	1	4	4	3	4	4	
		2↑	4	4	4↑	4	3↓	
「他者を大切にする」力	他者志向性	相手が傷つかないように話す	4	4	1	3	4	3
			4	4	4↑	3	4	3
	他者志向性	友達の気持ちを考えながら話す	2	4	4	2	3	3
			3↑	4	4	3↑	3	4↑
	他者志向性	困っている人に何かしてあげたい	2	4	1	2	4	3
			4↑	4	4↑	4↑	3↓	3
	他者志向性	人の役に立ちたい	2	4	4	4	4	4
			4↑	4	1↓	4	4	3↓
	他者志向性	友達に「じょうずだね」とほめる	4	2	4	3	4	4
			4	3↑	4	3	4	3↓
他者志向性	自分がしてもらいたいことを友達にもする	3	4	4	2	4	3	
		3	4	2↓	2	4	3	
他者志向性	友達の気持ちがわかる	2	3	4	3	3	3	
		2	3	4	3	3	3	
他者志向性	友達のいいところを見つける	3	3	4	4	4	3	
		4↑	4↑	3↓	3↓	4	3	

※評価値は、上段が7月、下段が12月の結果を示し、変化の向きを矢印で示した。

表4 「思いを伝え合う力に関するアンケート」結果

項目		生徒					
		A	B	C	D	E	F
自分の気持ちや考えを	話して伝えることが好き	2	3	4	2	4	3
		3↑	2↓	4	2	4	3
自分の気持ちや考えを	書いて伝えることが好き	3	3	1	2	3	4
		4↑	2↓	4↑	2	3	4
自分の気持ちや考えを	声を出したり、体を使ったりしながら伝えること好き	2	2	4	3	4	3
		2	2	2↓	2↓	4	3
仲間の気持ちや考えを	聞くことが好き	3	4	1	2	4	3
		4↑	4	3↑	3↑	4	4↑
仲間の気持ちや考えを	読むことが好き	2	4	4	4	4	4
		4↑	4	4	3↓	4	4

仲間といっしょに力を合わせて取り組むことが好き	4	4	1	3	4	4
	4	4	3↑	4↑	4	4
仲間といっしょに気持ちや考えを伝え合い, 仲間のいいところを見つけることが好き	3	4	1	2	4	3
	4↑	4	4↑	3↑	3↓	3
仲間といっしょに気持ちや考えを伝え合い, アドバイスすることが好き	1	3	4	4	3	2
	2↑	3	2↓	2↓	3	3↑
仲間といっしょに気持ちや考えを伝え合い, 自分の考えと違うところがあったら面白い	3	3	3	3	4	4
	4↑	4↑	3	2↓	4	4
仲間といっしょに気持ちや考えを伝え合い, 仲間からいいところを教えてもらおうととうれしい	4	3	1	2	4	3
	4	3	4↑	2	4	4↑
仲間といっしょに気持ちや考えを伝え合い, 仲間からアドバイスされるとうれしい	4	4	1	2	4	3
	4	4	4↑	3↑	4	3
自分から進んで仲間に話しかけることができる	2	2	4	4	4	4
	3↑	2	4	4	4	4

※評価値は, 上段が7月, 下段が12月の結果を示し, 変化の向きを矢印で示した。

5. 分析

「自分や他者の思いを大切にし, 伝え合う力」について, 生徒6名ひとりひとりの言動の変容を抽出し, アンケート結果の変容と照らし合わせ, 解釈的に分析した。

生徒Aは, 物語や会話文の音読は, 登場人物の心情を捉えて, 気持ちを込めて読むことができていた。書き方が分かれば, 自分の思いを書いて表現しようとする意欲が高まっていた。1学期は, 仲間の発表を聞き, 進んで感想を伝えたり質問したりすることが少なく, 促せば思っていることを伝えることができていた。2学期後半になり, 自ら進んで挙手して感想を伝えたり, しっかりした声や態度で発表したりすることができるようになってきた。10月の学校行事「東雲祭」では, 全校生徒に向けて, 本学級の演技発表のアナウンスをする役に自分から立候補し, 当日ははっきりとした声で堂々と紹介することができ, 発表への意欲の高まりが感じられた。「自他を大切にするコミュニケーションに関するアンケート」では, 「自分を大切にする」力の7項目中5項目, 「他者を大切にする」力の8項目中4項目, 思いを伝え合う力に関するアンケート」では, 12項目中8項目の評価値が上がっていた。自分の考えや気持ちと向き合う時間や, 仲間の良さをみつけたり思いを伝え合ったりする場面をどの単元でも設定し, 繰り返し経験したことで, 自分の思いを伝えることができたり受け入れられたりした満足感や, 仲間と関わりながら学習する良さや楽しさを感じられたからではないかと推察する。また, 1年生が一人しかいないXグループの仲間と一緒に学ぶことに慣れてきたことも影響していると考えられる。

生徒Bは, 自分の考えをしっかりとっていて, 書いてよりよく伝えようとするが, 声に出して発表することに苦手さを感じている様子は続いている。作文の発表では, 伝えたいことが明確になっているためか, 全員が聞き取れる声で話せていた。仲間の発表に対して, 感想は伝えようとするが, 質問をすることは少なかった。アンケートでは, 自己理解力の項目「自分の気持ちが分かる」と「自分の気持ちや考えを話して/書いて伝えることが好き」の評価値が下がり関連性がうかがえる。また, 他者志向性の項目「友達に『じょうずだね』とほめる」「友達のいいところを見つける」や「仲間といっしょに気持ちや考えを伝え合い, 自分の考えと違うところがあったら面白い」の評価値は上がり, 他者とのかかわりを大切に思う様子が推測される。そして, 「自分のできることとできないことがわかる」は上がっていた。3学期に入り, 本学級全員で行う生活単元学習の中で, 新年の抱負を漢字1文字にして伝え合う場面では, 「力」を選び, 『特に付けたい力は, コミュニケーション力です。』と発表していた。学校生活の中だけでなく, 思いや考えを伝え合う場面を多く設定したことで, 自分の課題を認識し, 自分の気持ちを伝えたり, 自分から話しかけたりできるようになりたい, あるいはその必要性を感じているのではないかと推察できる。また, 生徒Bの興味・関心がもてる題材や教材を準備することで, 自分の思いや考えを伝えようとする意欲が高まると考えられる。

生徒Cは, 9月に行った本学級の生活単元学習の単元「進路を語る会」で, 初めて出会った実習生の前で自分の進路について発表する時, 緊張のあまり泣き出したが, 声を震わせながらも最後まで発表することができた。入学当初から人前で発表する時に緊張することを自覚していたが, 人前で発表

することにチャレンジしたい気持ちをもち続けている。その意欲の継続は、自分でできたと思える経験の積み重ねや、他者から認められる評価によるものと推察する。またその意欲を引き出すためには、学習活動や発表の目的、方法が理解できるようにすることが必要であると考え。生徒Aと同様に、学校行事「東雲祭」で、全校生徒に向けて、本学級の発表のアナウンスをする役に自分から立候補し、当日は、緊張感を乗り越え、みんなで頑張ってきたことを紹介できていた。思いを伝え合う力に関するアンケートでは、6項目の評価値が上がり、2項目が下がっていた。思いや考えを伝え合う場面を繰り返し設定したことで、伝え合う良さを感じられたのではないかと推察する。自他を大切にコミュニケーションに関するアンケートでは、「自己理解力」の1項目が下がり、「他者志向性」2項目が上がり、3項目が下がった。自分の思いと向き合ったり、考えたりする時間を十分にとったり、自分の言動によって、仲間が喜んだり、仲間から感謝されたりする経験を重ねたりすることが大切であると考え。

生徒Dは、人前で発表する時、緊張や恥ずかしさで、声が小さく早口になることを自覚し、自信がもてないような様子がまだ見られるが、伝えたい気持ちが強い時や自信のある成果物を発表する時は、落ち着いて、聞き手に伝わりやすように抑揚や動作を付けて伝える姿が見られる。感想を伝え合う場面では、仲間の良さを見つけて、積極的に伝えようとしている。自他を大切にコミュニケーションに関するアンケートでは、「自分のできることとできないことがわかる」「自分の伝えたいことをきちんと伝えられる」「友達の気持ちを考えながら話す」「困っている人に何かしてあげたい」の評価値が上がっている。思いを伝え合う力に関するアンケートでは、自分の気持ちや考えを伝えることに関する項目の評価値が低く、仲間の気持ちや考えを聞いたり読んだり、伝え合ったりすることに関する項目が高い傾向になっている。このことから、自分の思いを伝えることに、苦手さを感じているが、伝えようとしていることや、仲間の思いや考えを知りよりよく関わろうとしていることが読み取れる。また、「仲間からいいところを教えてもらおうとどううれしい」の評価値が2のままで、自己肯定感の低さが続いていることが推測できる。自信がもてるように、自分が苦手と感じていることにチャレンジしてできたと思える経験や、他者から努力の過程や成果、生徒Dがもっている良さを認められる経験を積み重ねることが肝要と考える。またチャレンジしようという意欲を引き出すために、学習の目的や内容の理解を促し、生徒D自身が学習の価値や意味を見出せるようにすることが大切であると考え。

生徒Eは、仲間の発表をよく聞き共感したり、発表内容が理解しにくい時でも、仲間の良いところを見つけ、感想を伝えようとしたりする態度が継続している。課題を早くやり終えたい気持ちがあり、考えることや修正を面倒くさがり学習意欲が低下することもあるが、課題への取り組み方が理解できたり、学習活動の目的や内容に価値や意味を見出せたりすると、考えを深めたり、工夫してよりよく表現したりしようと思いの意欲的に取り組んでいた。生徒A、生徒Cと同様に、学校行事「東雲祭」で、全校生徒に向けて、本学級の発表のアナウンスをする役に自分から立候補し、当日は、みんなで頑張ってきたことを堂々と紹介でき、発表への意欲が感じられた。自他を大切にコミュニケーションに関するアンケートでは、「自分を大切にする」力に関する7項目中5項目の評価値が上がっていた。「他者を大切ににする」力に関する項目と、思いを伝え合う力に関するアンケートの項目では、ほぼ評価値の変化はなく、3または4の肯定的な捉え方をしていた。本学級では、各教科と各教科等を合わせた指導(生活単元学習)で、自分の思いや考えを見つめ、考えた理由や選んだ理由を伝えたり、互いの発表を聞き合い、感想を伝えたり質問をしたりする活動を繰り返し積み重ねている。3年生である生徒Eのアンケート結果は、その積み重ねによるところが大きいと推察する。

生徒Fは、仲間の発表をよく聞き共感したり、仲間の良いところを見つけたり、仲間の話に関心をもち質問したりする態度が継続している。自分が気持ちや考えを伝えようと、相手の反応を見ながら話したり、相手が理解できていないと感じた時は、進んで絵を描いたり、動作を加えて説明しようとするが増えている。自他を大切にコミュニケーションに関するアンケートでは、「自分だけ意見がちがっても意見を言う」の評価値が2に下がっていた。他の項目14項目中4項目に変化はあったが、全て肯定的な捉え方であった。思いを伝え合う力に関するアンケートでは、自分の気持ちや考えを伝えることに関する項目に変化は見られず、全て3または4の肯定的な捉え方であった。仲間の気持ちや考えを聞いたり読んだり、伝え合ったりすることに関する9項目中3項目の評価値が上がり、全て3または4の肯定的な捉え方であった。生徒Eと同様に、国語科での学びを含めた3年間の学び

の積み重ねにより、1項目以外のすべてのアンケート項目が、肯定的な捉え方をしていたと推察する。評価値が2に下がった項目については、相手の反応を見ながら自分の思いを伝えようとするようになり、反応をみることができるようになったため、仲間の気持ちや周囲の空気を読みとり、自分だけ意見がちがう時に意見が言いづらい場面があったのではないかと推察する。このことから、周囲と違う意見をもつことは、間違いでもいけないことでもなく、伝えることで、互いの考え方や見方を広げたり、よりよいゴールを仲間と共に考え見つけられたり、互いを尊重し合える関係作りにもつながったりすることを、授業の中で伝え続け、実践することが大切であることが分かる。

6. 考察

生徒6名の分析内容から、自分や他者の思いを大切にし、伝え合う力を育む授業に必要な視点とその効果を考察し、表5にまとめた。

表5 自分や他者の思いを大切にし、伝え合う力を育む授業に必要な視点とその効果

必要な視点(◆)と配慮事項(☆)	効果
◆思いや考えを伝え合う場면을繰り返し設定し、積み重ねる。 ☆場面を設定するだけでなく、安心して伝え合える環境づくり、仲間づくりが必要である。 ☆本時の目標や学習の流れを板書する時「伝え合おう」の言葉を書いたり、生徒に「伝え合おう」という言葉を繰り返し伝えたりする。	○自分の思いを伝えることができるようになる。 ○受け入れられた満足感を得ることができるようになる。 ○仲間と関わり合いながら学習する良さや楽しさ、伝え合う良さを感じることができるようになる。 ○自分のコミュニケーションにかかわる課題を認識し、克服しようとする。
◆生徒の興味・関心をもてる題材や教材を準備する。	○自分の思いや考えを伝えようとする意欲が高まる。
◆努力し、できたと思える経験を積み重ねることができる学習内容を計画する。	○苦手なことでも、チャレンジしたいという意欲を引き出し、その意欲を継続することができる。
◆他者から認められたり、良さを伝えられたりする場面を設定する。	○自信をもち、自己肯定感が高まるようになったり、学習意欲が継続したりする。 ○仲間の考えや思いに関心をもったり、仲間を思いやった言動をしたりするようになる。
◆学習活動や発表の目的、方法が理解できるようにする。 ☆生徒の実態に合わせた理解を促す支援をする。	○学習意欲を引き出すことができる。 ○学習の価値や意味を見出せるようになる。
◆自分の思いと向き合ったり、考えたりする時間を十分にとる。 ☆どう向き合えばよいのか、どの視点で考えたらよいのか、生徒の実態に合わせたヒントを出す。	○自分の思いや考えが明確になったり、思いや考え方を深めることができたりする。 ○自分の思いや考えを伝えようとする。
◆自分の言動によって、仲間が喜んだり、仲間から感謝されたりする経験を重ねることができる場を設定する。	○仲間とのかかわりの中で、よりよい言葉かけをしようと工夫したり、仲間のために役に立つことをしようとしていたりするようになる。
◆周囲と違う意見をもつことやその意見を伝えることの良さを伝える。 ☆いろいろな場面で、繰り返し伝える。	○勇気をもって、自分の思いや考えを伝えようとするようになる。 ○自分の意見や他者の意見を大切にし、尊重しようとするようになり、話しやすい環境をつくることができる。 ○互いの考え方や見方を広げたり、よりよいゴールを仲間と共に考え見つけられたりすることができる。
◆各教科や各教科等を合わせた指導の中でも、自分の思いや考えを見つめ、考えた理由や選んだ理由を伝えたり、互いの発表を聞き合い、感想を伝えたり質問をしたりする場面を設定し、繰り返し積み重ねる。	○自分や他者の思いを大切にし、伝え合おうとすることができるようになる。

7. まとめ

自分や他者の思いを大切にし、伝え合う力を育む授業に必要な視点を、配慮事項を含めて示し、その視点で実践した時の効果をまとめることができた。課題として、本研究で用いたアンケートは、本研究の目的のために、筆者が共同研究や文献をもとに作成したため、他の教員とともにアンケート項目について精査することができなかつたことが挙げられる。また、本研究では、特別支援学級国語科の授業を通して見えた視点であるため、今後は各教科や各教科等を合わせた指導の中でも、他の教員とも連携し、自分や他者の思いを大切にし、伝え合う力を育む授業に必要な視点とその効果について検証していきたい。

【 引用・参考文献 】

- 広島大学附属東雲小学校・東雲中学校, 教科等本来の魅力に迫るための教員の資質・能力—授業づくりに必要な各教科等の視点—, 東雲教育研究会実施要項, 2022.
- 文部科学省, 特別支援学校学習指導要領解説, 各教科等編 (小学部・中学部), 2018.
- 文部科学省, 国語☆☆☆☆ 国語☆☆☆☆☆ 教科書解説, 2021.
- 文部科学省, 平成 22 年度「子どものための優れた舞台芸術体験授業」[児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験] アンケート結果, 2010.
- 横山由季・井上美由紀・梶山雅司・久下あいら・笹倉美代・高木由希・氏間和仁・森まゆ・川合紀宗・林田真志・新海晃・若松昭彦・竹林地毅・船橋篤彦・村上理絵, 「小学校・中学校知的障害特別支援学級における自分や他者を大切にする資質・能力を育む授業プログラムの開発」, 広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要第 49 号, 2022.

(資料 1)

(資料 2)

自他を大切にする コミュニケーション に関するアンケート	いつも そう する	とき どき そう する	あ ま り そ う し な い	ぜ ん ぜ ん そ う し な い
1 自分の気持ちがわかる				
2 自分の気持ちの変化がわかる				
3 自分のできることとできないことがわかる				
4 自分の伝えたいことをきちんと伝えられる				
5 自分だけ意見がちがっても意見を言う				
6 転校することになってもやっていける				
7 分からないことは周りの人に聞く				
8 相手が傷つかないように話す				
9 友達のことを考えながら話す				
10 困っている人に何かしてあげたい				
11 人の役に立ちたい				
12 友達に「じょうずだね」とほめる				
13 自分がしてもらいたいことを友達にもする				
14 友達の気持ちがわかる				
15 友達のいいところを見つける				

思いを伝え合う力に 関するアンケート	と て も そ う 思 う	ま あ そ う 思 う	あ ま り そ う 思 わ な い	ぜ ん ぜ ん そ う 思 わ な い
1 自分の気持ちや考えを 話して伝えることが好き				
2 自分の気持ちや考えを 書いて伝えることが好き				
3 自分の気持ちや考えを 声を出したり, 体を使ったりしながら伝えることが好き				
4 仲間の気持ちや考えを 聞くことが好き				
5 仲間の気持ちや考えを 読むことが好き				
6 仲間といっしょに力を合わせて取り組むことが好き				
7 仲間といっしょに気持ちや考えを伝え合い, 仲間のいいところを見つることが好き				
8 仲間といっしょに気持ちや考えを伝え合い, アドバイスすることが好き				
9 仲間といっしょに気持ちや考えを伝え合い, 自分の考えと違うところがあつたら面白い				
10 仲間といっしょに気持ちや考えを伝え合い, 仲間からいいところを覚えてもらおうとうれしい。				
11 仲間といっしょに気持ちや考えを伝え合い, 仲間からアドバイスされるとうれしい。				
12 自分から進んで仲間に話しかけることができる。				

(横山他, 2022)